

平成28年度知事と県民の意見交換会概要

テーマ：超高齢・人口減社会における若者の地元定着の促進と若者の育成

日時：平成28年7月22日（金） 16：00～18：00

場所：秋田ビューホテル

(知事あいさつ)

御参加に感謝する。皆さんがどんな事を考えているのか、秋田をどう思っているのか、将来どんな事をやりたいのか、悩みなど何でも話してほしい。皆さんはこれから、秋田に残る人、故郷に帰る人、東京辺りに就職する人など様々だと思うが、若い皆さんが将来を担う事になるので、我々行政が皆さんの考えをどう受け止めるか参考にしたいと思う。私が卒業した頃とは雇用や給料の状況が全く異なる。また、行政に大きな借金がなかったのも、色んな事が出来た。この頃は努力が報われた時代だった。今は世界的に先進国は成長が止まり、就職しても身分が保障されるものでなくなっている。私の子どもが卒業した10数年前とも違ってきている。今、若い方々をどうやって地域の活力、国の活力にすればいいのかわからない。そこで、自由にお話を聞いて、我々が何かを学びたいと考えているので、よろしく願います。

【参加者自己紹介】

(A氏)

神奈川出身、秋田では観光の会社でアルバイトしたほか、酒蔵でインターンをしていた。

(B氏)

静岡県出身、秋田県は東成瀬村以外回った。卒業後は秋田県内の行政で働きたいと思っている。

(C氏)

秋田市出身、学生団体ARC代表。団体の活動を紹介する。学生が地域に赴き、地域とそこに住む人々との交流を通じた地域の活性化を目的として活動している。学生が地域に発想や活気を与え、地域は学生に体験や交流を提供してくれる。ARCはその連絡調整を行い、学生が自発的に活動出来るようになる。活動規模は全県規模に渡っており、藤里共助プロジェクト、上新城農業プロジェクト、美郷プロジェクトは秋田地域振興局のやんぐびじょん事業で活動出来る様になったもの。米づくりプロジェクト、檜山地域産業復活プロジェクト、男鹿里山美田プロジェクトを行っている。他に、白岩でのささら舞と大名行事の18年ぶりの復活、大阿仁協働プロジェクト等を行っている。このように、学生が自ら運営して、地域の方々と共に連携するのが私達の活動である。

(D氏)

福井県出身、北前船の交流等秋田と地元との繋がりがあるので、そういう関係を大切

にしながら、秋田を元気に出来る様な事をしていきたいと考えている。

(E氏)

秋田県出身、ARC所属で西仙北の活動に参加しており、秋田県の農業に関心を持っている。

(F氏)

山梨県出身、秋田は日本酒が有名なので楽しみである。

(G氏)

横手市出身、学生団体ATMU!の紹介をする。2011年に結成し、地域活性化を目的に活動している。この春、秋田街ぐるっとマップの鳥海編を作成した。学生が地域を歩き、その地域の魅力を知り、地域の方々とふれあう事を重視し、動画作りやマップ作りを行っている。

(H氏)

愛知県出身、学生団体秋田キャンパスネットの代表をしている。キャンパスネットでは国際協力、地域貢献を目的に活動を行っている。最近では、秋田県内各地域を訪れ、地域の方々にインタビューを行い、その地域の良さや魅力を発見し、アルヴェで発表するイベントを行った。また、八郎潟町田んぼアートの事業に参加する等の活動を行っている。個人的には北秋田市のトラ男ファームで農業体験をしたり、五城目朝市を訪れ、インタビューを通して、その良さをみつけたりしている。

(I氏)

一関市出身、地元とあまり変わらないので暮らしやすい。何かをしたいと考え、東京で経営者の方や仙台で起業家の方を訪問し情報収集し、これなら秋田でも出来るのではと思っているところ。これから秋田に貢献したいと考えている。

(J氏)

新潟県出身、学部時代に学生会でイベントを行ってきた。

【意見交換】

(C氏)

秋田市の住宅街で生まれ育った。県内色々な地域を訪問して気づいたのは、秋田市に
いるだけでは、秋田をわかった事にならないという事。秋田県はひとくくりには出来ず、
その地域で文化も気質も違うという事がわかった。例えば、藤里町でも血気盛んな地域
と穏やかな人達が多い地域がある。

(F氏)

秋田といっても地域によって全然違うと気づいた。県民性というよりも小さい地域ご
との人間性があるのかなと思った。両親が山梨から秋田に来て旅行する時、色んな所を
回るのに時間がかかると言われた。

(H氏)

大学では秋田に関心のない友達が多い。自分は活動を通して秋田は魅力的だと思った。地域に出向いてインタビューをすると「なんもねえ」と言われるが、実は好きなものがある様だ。また、温かい気持ちになるのが秋田のいい所だと思う。愛知県出身で、両親は帰ってきてほしいと思っているが、出来れば秋田に就職したいと思っている。友達は秋田から離れると言ってるので、大学で秋田に密着した講義があればいいと思う。

(B氏)

秋田市中心部以外はどこも人が少ない、若者がいなくて困っているという印象。秋田の人が秋田に残って秋田で働き続けるのも選択肢だが、一回外に出て秋田に戻りたいと思った時、起業したいのであれば金銭的な援助や、地域とのやり取りの支援がうまくいけば戻る人が増えると思う。秋田県は人口減少が全国一進んでいるので、他県を参考にすることは出来ず、イノベーションしかないと思っている。東京や海外からも、日本の状況を切り開くビジネスが出来る人間を誘致していく事が必要。少数精鋭で優秀な人を秋田に呼び込む事が出来れば、秋田県独自の社会が出来て、それを発信する事で、世界に貢献できる秋田になれる。

(A氏)

秋田に来る前に横浜のドヤ街、生活保護受給者が6割以上の町で働いていた。その町の人口の7割が65歳以上の男性で、都市型限界集落だった。秋田に来て、限界集落と言われる地域に入ったが、横浜のそことは全然違っていた。それは、地区の多様性があり、それを作っているのがその地域の人達の繋がりだと気づいた。横浜では、出稼ぎに来てそのまま居着いた人が多かったので家族の繋がりはない。お祭りに代表される様に秋田の魅力は地域の多様性だと思う。そこを出していけば人口減少社会のパイオニアになれるのではないかと思う。

(I氏)

秋田のいい所は、東京に比べると静かで住みやすい所。静かな所を好む人はたくさんいると思うので、そこを長所とすれば人は集まると思う。若者が流出するのは、有名な企業が外にあるからか。その点、秋田で有名な企業が少ない。若者はゲームが好きなので、秋田でゲームの会社を作れるプラットフォームがあれば若者が定着するのでは。自分は今、東京の人とタッグを組んで進めようと思っている。起業する人への交付金を増やしたら若者が定着するのではないか。

(D氏)

福井県出身だが長く住んでいたのは鳥取市。今は福井県に戻りたいと思っている。小学校の時、食育が始まり、調理実習で郷土料理を知ったり、道徳や総合学習、図工でも身の回りのいい所を学校教育で学んだのが大きい影響を与えている。地元が好きだと認識したのは、福井県を出た時、小さい時に楽しい事をいっぱいやった記憶による。若者が外に出るメリットと中にいるメリットを考えたらどうか。秋田にいるメリットを作っていないと、若者は流出していくと思う。

(G氏)

横手市出身で大学では農業について学んでいる。食育について、小中学校では給食で地域性を出す等の取組をしているが、先生達が農産物生産者の魅力や文化を伝える力が劣っている様に思う。県立大でも秋田に触れる教育があるが、もっと大学生が外に出て行くのも必要だと思う。

(J氏)

アルバイトで塾講師をして中高生と話をする、「秋田には何もないから都会に出たい。自然よりもキラキラした所がいい」と言われる。一方、県外から秋田に来て秋田に就職した友達の理由は、付き合ってる人が秋田出身の人だった。秋田は今婚活が盛んだが、県外出身の人を秋田に止める出会いの場が必要だと思う。

(E氏)

A R Cの活動で秋田の色々な所に行き、秋田、特に農業に興味を持つようになった。どこに行っても農家は70代を過ぎており、若い人が来ると明るく迎えてくれてうれしく思う。これはこういう団体に入ってるから出来る経験。大学と家を往復している人にはこういう活動を紹介して秋田を好きになってほしい。秋田に田畑はたくさんあるのに、農業体験が出来る機会は少ない。先ほど婚活の話があったが、農業体験を組み入れてもいいと思う。

(知事)

秋田の人は「秋田遠くてな」「秋田何もない」2つを必ず言う。県外出身の学生さんも多いがどう思うか。九州の人は自分の土地を遠いと言わない。東京中心と考えてないと思う。

(B氏)

東北は雪が多く遠いイメージで、高校生まで秋田がどこにあるかわからなかったが、ドラマ「アイリス」で気持ちが近くなった。九州と東北では情報の量が違うと思う。

(A氏)

秋田のイメージはナマハゲ、キリタンポだった。秋田に来てみたら秋田は洗練されていて文化度が高く、出会う人の趣味もいい印象。30代、40代の人と飲みに行くと、仕事以外にも力を入れている。趣味が良く、ワークライフバランスが取れていていいなと感じる。その事をSNSで発信すると、横浜の友達は来てみたいと言う。秋田には都会の人を引きつけるものはあると思うので、それを発信する情報の量は重要だと思う。

(D氏)

鳥取からの中心地は大阪。大阪と比較すると秋田は距離的には遠い。何もないと言うが、鳥取県の人口は57万人。秋田はバス停は綺麗だし、コンビニのレジは3つもある。都会に比べれば何もないかもしれないが、鳥取よりは上。どの田舎もその気持ちは共通かもしれない。

(I氏)

時間とお金をかけて、返ってきた代償が少ないと遠いと感じると思う。距離では、東

京から九州よりも秋田の方が近い。実際の距離ではなく、見返りが少ないと遠いと思う。物理的な距離ではないと思う。

(B氏)

今年、高校生と交流する機会が多かった。彼らは、総合学習等で秋田について学ぶ教育を多く受け、秋田への理解も深まったそうだが、大人から「秋田に残りなさい」という押しつけを感じ、秋田にいて自分が秋田に貢献しなくてはならない強迫観念がある。それから解放されるために県外に出たいと聞き、もったいないと感じた。秋田はいい所だと押しつけないよう総合学習を見直し、選択肢の一つにした方がいいのではないか。

(知事)

言いたいことは分かる。「ふるさとのために」と言い過ぎると萎縮してしまう。ごく自然にふるさとに対する愛情が生まれてくるのならよいが。

(C氏)

自分は郷土教育を受けた立場。自分は秋田について学んで興味が深まったが、他の人はそうでなかった。興味のある子、ない子、大きな違いがあり、郷土教育を受けたが「興味ないから外に出よう」思う子もいる。

(I氏)

秋田に残るメリットは何だろう。

(C氏)

秋田の中高生は、家族がいるのがメリットだが、気づくのは大学生になってから。ただそれは、地元に残るメリットであり、秋田は都会に比べて家族間や地域のつながり、地域のコミュニティが残っているのが秋田のメリットだと思う。

(J氏)

婚活の話題で、大学1、2年生はお酒を飲めないが、学内で出会いはある。卒業したらどうやって出会うのだろうか。休みもそれぞれ違うし、どうすれば集まりやすいのか。

(F氏)

結婚を考える時、1、2回お酒飲んで、それで決めるのは厳しいと思う。お酒で釣るのではなく、何か同じ活動をして相手のいい面を気づくのではないか。

(E氏)

西仙北グリーンツーリズム協議会では学生を手伝って欲しい農家へ派遣している。それを学生だけでなく、出会いを求めている男女に広げると、農業をやっている高齢者もプラスだし、男女も体を動かして健康的にしっかり交流出来るのではないか。卒業したらそういうイベントを作りたいと考えている。

(I氏)

自分はこれまで、体育会、文化祭の後に告白された。婚活した人達で運動会をやれば

親密になるのではないか。スポーツ観戦でなく実際に運動するのが大切。

(B氏)

昨夜、婚活情報を調べたが、秋田市役所の婚活事業は充実しており、結構婚活イベントがあるとわかった。だが、情報が回ってこないため知られてないと感じる。特に若者へはSNS駆使して情報発信しないとイケない。HPも整ってないのも課題だと思う。

(知事)

あきた結婚支援センターに情報が集まっている。見ていると婚活で出会ってもその先に進めない人も多い。アドバイザーが後押しするとうまくいき、4年で800組成婚の実績がある。将来の就職についてどう考えているか。

(H氏)

秋田で就職して、職業と趣味をバランスよく行いのんびり暮らしたい。

(C氏)

公務員志望。行政の人と関わる事が多いのだが、秋田の事を好きな人が多い事や仕事の内容を知って希望している。

(G氏)

公務員志望で秋田に残りたい。秋田県出身の卒業生に企業パンフを渡しており、その中にインターンシップの受け入れの紹介があったが、木材業は受け入れてない様だ。地元企業が輝いていけば地元に残るのでないか。

(知事)

私も県外に出て民間に就職したが、通勤に1時間半もかけるのが疑問で秋田に戻り公務員を受けた。最初から秋田を思った訳でなかった。人生は必ずしも専門を活かせる訳でないので、あまり堅く考えない方がいいのではないか。

農業やりたい人いなかったか。

(E氏)

秋田で農業に関わる仕事を希望をしており、この夏はJA秋田おばこにインターンシップに行く予定。土地買うのはハードル高いが、農業と何かで新しい事が出来ないかと考えている。

(司会)

新規就農すれば、5年間150万円、その前の研修期間も2年間150万円の支援がある。農地を借りる制度もあり、色んな方法があるので考えてもらえればと思う。

(知事)

農業へ若い人の参入増えている。また、今年から大学生からベンチャー起業の支援制度が出来た。

(I 氏)

将来は、スマート農業、農業の自動化をアプリにしてタブレットで操作し、ロボットが作物を育てる事を考えている。そのためには、資金や知名度ないので、ITで何かゲームを作りたい。農業のイメージアップのために、乙女系やイケメン等を登場させるゲームを考えている。

(A 氏)

トラベルデザインでアルバイトもしていた。将来は秋田のお酒を世界に売る仕事をしたい。

(B 氏)

自分もトラベルデザインにいたが、公共交通に興味があるので、訪日外国人にどこが不足かヒアリングしていた。将来は県庁に入りたい。公共交通に携わる仕事や秋田について色々な方面で学び貢献していきたい。

(D 氏)

福井に戻り、実家が農家をしているので、それを守りたい。実家では田んぼや牧草を作っているが、薬草の試験栽培にも関わりたいと思っている。

(知事)

最後に皆さんの秋田の好きな所を教えてほしい。

(A 氏)

秋田のお酒、特に春霞が好き。

(B 氏)

秋田市外旭川で9月下旬稲穂がふわっと風に吹かれる様子が好き。

(C 氏)

藤里町のなんこ鍋が好き。

(D 氏)

農道の夏の風景が好き。広い田んぼを見ると秋田だなと思う。

(E 氏)

自分が住んでいる地域の人達の気持ちが好き。都会ではないようだが、会ったらあいさつをするのが秋田のいい所だと思う。

(F 氏)

雪景色が好き。雪と木が美しい。これが自然の美しさだと思った。

(G 氏)

夏の送り盆祭や山ぶっつけが好き。

(H氏)

北秋田市の星空が好き。

(I氏)

人が好き。特に仙北市には10回位行ったが、地域の人達とのやりとりが好き。

(J氏)

秋田弁の力の抜けた感じが好き。「なんもだー」「んだ」は、自分も使う様になった。

(知事)

皆さんのお話から貴重なヒントを得た。婚活へのアプローチの仕方、遠いのは物理的な距離の遠さでなく、情報量やコスパだという事はなるほどと思った。皆さんはこれから就職だが、学生ベンチャーや農業等、学生への制度の情報発信が少ないとわかった。地元で活用出来る制度があっても、それを見逃して県外へ行くのはもったいない。学校の就職担当の先生に伝えるだけでなく、2年生位の学生さんに情報を届けないといけない。また、インターンシップはかなりやっているが、間口、業種が少ないという声を聞き、受け入れ態勢を広げる必要がある。皆さんの活動による地元の人達とのつながりも、それで終わりではなくフォローもしっかりとしなくてはならない。学生グループの活動は、後輩につながり続けていけるよう、行政もバックアップするので、楽しみながら努力してほしい。これからは皆さん達の時代、自覚を持って頑張してほしい。ありがとうございました。

(終了)